

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西 (ひまわり)		
所在地	京都府京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成24年11月17日	評価結果市町村受理日	平成25年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kanji=true&JigyosyoCd=2694000049-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム京都洛西では、ご入居者様に自宅に居られた時と同じような環境で過ごしていただき、出来ることを妨げず、いつまでも行いたいことができるように支援しています。地域との触れ合いを常に考え、月に一度は必ず地域のイベントに参加するよう心掛けており、当ホームのイベント等にも他事業所の職員やご入居者様・近隣の方々にもご参加いただき、地域にどんどん溶け込んで介護施設ではなく、地域にある一つの住まい(自宅)として思っていただけよう取り組んでおります。職員同士も大変仲が良く、助け合いながら入居者様の事を第一に考え、入居者様の喜びを職員自身の喜びとして生活支援をおこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度よりホーム独自の理念として「介護＝快互」を掲げています。利用者の生活を支える事を第一に考えた上で、援助する側される側と分けるのではなく、利用者と職員がお互いに助け合いながら日常を過ごす事で両者が笑顔になれるようこの気持ちを込めています。法人では各事業所の取り組みを評価する場があり、当該ホームは、特定の方を対象に排泄全般の問題を事例として上げ、排泄時の姿勢や時間等を工夫し、1年を掛けて取り組んだ結果、改善に至った経緯を発表しています。他事業所の取り組み事例から当該ホームに活かせる事柄もあり、ケアの質の向上に繋がっています。地域とも自治会に加入して行事に参加したり、ホーム内の行事に来て頂いたりと交流を図っています。今後は、地域貢献の一環として、職員が講師となり認知症サポーター養成講座の開催を考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にてクレド(運営理念)を唱和して理念を踏まえながら日々入居者様のケアに取り組んでおります。	法人の理念を項目毎に理解しながらケアに反映させ、月に1回の職員会議でも振り返りの機会を持っています。今年度より、ホーム独自の理念として職員間で話し合い「介護＝快互」を掲げています。利用者を第一に考えた上で、利用者職員がお互いに助け合いながら生活する中で両者が笑顔になれるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、新林協議会にイベントに参加させていただいたり、近くのスーパーなどへ買物や散歩に行き、地域と触れ合う場を設けている。	自治会に入会し回覧板から地域の情報を得ています。ファックスや直接ポストへの投函で地域情報をもらえることもあり、高齢者サロンや体育祭に参加しています。ボランティアが駐車場の花壇の世話をしてくれたり、ホームの行事にも地域の方々が参加してくれ、野菜をもらう等交流を図っています。また、保育園児の来訪もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、学生の見学受け入れを積極的におこなったり、職場体験や地域住民を対象に認知症の理解や接し方等の勉強会開催を検討中だが、開催に伴いスタッフに認知症サポーター講座を随時受講してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会・自治会長・地域包括・他グループホーム・ご家族様など、様々な方にご出席いただき、ホームでの取り組みや相談事などを話し合い、サービス向上につなげています。	自治会副会長、司法書士、他事業所職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て、2か月に1回開催しています。事業所の運営や活動の報告を行い、参加者からは様々な意見やアドバイスを聞いたり、地域の情報をもらって運営に反映しています。議事録もわかりやすくしっかりとまとめられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、議事録を洛西支所に届けに行き、ホームについての話をを行うようにして協力関係を築くよう取り組んでいます。	運営会議の議事録を直接行政に届け、現状を報告しています。疑問点等は直接出向いたり電話で相談し、アドバイスをもらっています。行政主催の研修にも参加し担当者と交流しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては研修をおこなっており、全スタッフが理解し取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、開錠に取り組もうとしたが、玄関の構造上、外側からしか自動では開錠しないようになっており、内側からは開けることができない。	法人での研修を受講し独自でも勉強会の中で話し合っって身体拘束についての理解を深めています。各ユニットの入り口は開いていますが、玄関は建物の構造上開放できない為、利用者の様子を観察して外へ行きたいそぶりが見られた場合は付き添って外出しています。ユニット毎の行き来やエレベーターの乗降は自由にしてもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて高齢者虐待防止関連法について研修をしたり、入居者様との関わりの中で日々スタッフ同士で注意しながら身体拘束防止に努めている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を受けておられる方がおられ、運営推進会議にも司法書士の方が参加してくださっており、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を1字1句読み合わせ、その都度疑問があれば質問に答えるようにして、ご家族様の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、ご家族様アンケートを取っており、要望や意見に対し取り組みを行い、運営に反映させている。	面会時に直接意見や要望を聞くと共に、利用者の様子を細かく伝えています。得られた意見に対しては、職員間で検討したり、必要に応じて法人に相談し意見が反映できるように取り組んでいます。法人では、年に1度の家族アンケートを行い各事業所毎に集計を出して結果を公表しており、改善策も家族に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うカンファレンスにて意見や提案を聞いたり個別に話す機会を設け、提案などの実践に取り組んでいる。	月に1回の会議で意見を出し合い、職員の提案はまず実行に移して業務改善に繋げています。毎日の申し送り等日常的にも話し合う機会を多く作っています。管理者は必要に応じて個別面談の場を持ったり、現場での職員の様子を見て声を掛けたりしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰制度・様々なコンテストなどを行い、職員のモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を立てて関西のホームの中で他職員と一緒に研修をおこなったり、外部研修もすすめている。様々な資格支援もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への挨拶まわり・イベントなどの交流を通じてネットワークを構築したり運営推進会議への参加もしていただいている。洛西地区にある他GHとの情報交換会の定期開催を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、不安や希望などをできるだけ聞きだしスタッフとケアについて話し合いを行い信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、入居者様と共にご家族様の不安や希望などをできるだけ聞き出し、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、入居者様・ご家族様が「こうしたい・こうして欲しい」思っておられることに対して、その人に為にならないと判断した場合は相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは出来るだけおこなっていただき、出来ない所だけをお手伝いさせていただくようにしている。その他、様々なことを教えて頂いたりしながら双方に支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けていただきたいこと等あれば、ご家族様に連絡し相談させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩に行ったりしている。	利用者の会いたい人を聞いて家族に伝えホームに来てもらえるよう段取りしたり、家族と墓参りに行かれています。職員とは自宅を見に帰ったり、友人の来訪時には次回の行事のお誘いをして再度の訪問をお願いしています。以前から馴染みの理容師にホームまで来てもらって散髪されている方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助けあったり(食器の片付けや洗濯物たたみ)出来る様、状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者が3人おられるが、施設や病院に入られた後は相談や支援は行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、ホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、一部ではあるがセンター方式も使用している。	今年度よりセンター方式を採用し、生活歴や好み等より詳細な情報を収集しています。日常の会話から把握した思いを申し送りノートで共有し、把握の困難な方には本人の立場になって考えながら職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にアセスメントを取りますが、生活している中で、気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っていただいている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行い、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成している。	本人や家族の思いを基に介護計画を立てています。3ヶ月に一度、家族や職員等が参加する担当者会議を開催し、現状と計画にずれがないか確認し合っています。また、3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年毎に見直しを行っています。医療的なアプローチが必要な方には医師や看護師の意見も取り入れた計画を立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し、申し送りを詳細に行ない、情報共有しながら実践や介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことを出来るだけ支援できるよう取り組んでいる。入居者様の買物などにも積極的に取り組んでいる。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、地域の様々な取組みに参加させていただけるよう、自治会に働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診医に来て頂いており緊急時も24時間医師の指示を受けることができる。週3回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。	以前からの主治医を継続できることを入居時に説明しています。ホームの提携医は2週間に1度往診があり、24時間の連絡可能な体制が整っています。医療連携記録に往診時の結果や指示を記録して共有を図っています。以前からの主治医を継続している場合は、家族と受診時の情報を細かにやり取りしています。ホームには看護師も配置されており、日々の健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録しスタッフも気づいたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様・病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末期に向けた方針の話し合いはおこなっている。	入居時に看取り指針を用いて説明しています。状況に変化があれば医師を交えて家族と話し合っ方向性を決める事としています。現在までには看取りケアの経験がないため、体制作りや出来ることを見極めてから支援が出来るかどうかは決めたいと考えています。	体制作りや職員の心構え、必要なケアの方法等、看取りケアに必要な事柄を早い時期から考えておくために事例を用いたり、勉強会を開催されてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習は受けており、救急対応に関しては、近々講習予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。	年に2回消防署の指導の下、昼夜を想定して避難訓練を行っています。通報訓練、避難経路の確認や消火器の使用方法等の訓練を行い、消防署からのアドバイスももらっています。運営推進会議で防災についての議題も出して地域からの協力を働きかけています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	接遇研修を受講しています。利用者に不快な思いをさせるような言葉かけや態度をしないように心がけており、不適切な場面が見られた場合は管理者やユニットリーダーが直接注意しています。家族アンケートでも接遇に対しては高い満足度を得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人が行いたいことを実施できるように、随時問いかけなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時「今日はどの服にしましょうか？」と伺い、ご本人様を選んだ服を着ていただいている。入居者様によってはアクセサリなども身につけておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、皮を剥いたり食器を拭いていただいたりと、毎日お手伝いをしてくださっている。時おり、買物にも一緒に行っている。	献立は法人が決めて食材が配達されていますが、内容をアレンジしたり、行事の際は利用者の希望を取り入れて献立を考えています。テーブルにコンロを置いて調理等出来る方に手伝ってもらっています。おやつも手作りが多く月に1回程度は外食に出かけています。嫌いな食材やアレルギーのある方には代替え食を用意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重や状態に応じて食事量などを調整したりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声かけを行い、トイレ誘導を行うことで、失禁が減ったり、パッドから布パンツで過ごせるようになった方もおられる。	排泄チェック表からパターンや間隔を把握してトイレ誘導しています。基本はトイレでの排泄で、紙パンツから布パンツへ移行でき皮膚の状態も改善した方もいます。おむつ対応の方もいますが、徐々に筋力を付けてトイレで排泄が出来るように話し合っています。排泄しやすい姿勢や排泄の間隔等、一年をかけて排泄問題に取り組んだ結果、改善に繋がった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によってはバナナを毎日食べたら調子が良いという方もおられるので、個々に応じた対応もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴の希望に合わせて柔軟に対応している。拒否のある人には理由を探り方法を考え入浴していただいている。	毎日入浴の準備をしています。午前や午後等希望の時間に入ってもらい、温度や回数も希望に添っています。菖蒲湯やゆず湯等の季節湯も楽しんでもらったり、拒否される方には、声かけの方法やタイミングを工夫しながら入浴してもらっています。今後は夜間対応も可能となるよう考えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごして頂いており、居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたりとお眠りにもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながらドクター・看護師と相談し服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に合わせた役割を持っていただいたり、ドライブが好きな方には毎日のようにドライブに行っていたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来るだけご本人の希望に添えるよう支援しています。ドライブや買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などはご家族様に連絡して相談させていただいています。	外出を希望される利用者が多くほぼ毎日ドライブに出掛けています。個別で買い物に出掛けることもあります。また、季節行事で花見や紅葉狩り初詣等に出かけたり、地域行事の参加等出かける機会を多く作っています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方についてはご本人で管理されています。(ご家族様了承済)買物に行くと自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器と抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け、換気にも気を使っています。	リビングは毎日掃除をして清潔に保ち、月に1回は生け花を飾ったり、利用者と一緒に作った作品を季節毎に変えています。日差しがまぶしい時間帯にはカーテンやすだれで対応しています。廊下や階段踊り場にソファを置いて一人になれる場所を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、1人になれる場所が作りにくいですが、気の合った入居者様同士過ごされることが多々あります。廊下の奥にはソファを設置しており1人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇など)を持ち込んでいただいております。自宅と同じような環境で暮らせるような環境になっています。	自宅から大切な家族の写真や仏壇を持って来られています。自宅と同じように家具を配置して、趣味の品を飾ったり、居心地良く過ごせるように配慮しています。習慣に応じて畳を敷いて布団で休まれている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほぼ自力で歩行できる方ばかりで自ら状態を判断して杖を持ったり手すりをもったりシルバーカーを押したりしながら歩行されています。身体的に重度の方がおられますが、机の高さを調整したり、福祉用具を活用したりしています。		